



「からむし織」は苧麻（チョマ・カラムシ）という植物の繊維を素材とした古代からの織物で我が国最古の織物とも呼ばれ、かつては日本各地で織られ献上布として納められた貴重な布でした。麻をはるかに超えるといわれる品質は、吸湿性、速乾性に富んだ肌触りの良さを持ち、夏衣としては最高級の品質と評価されています。

昭和村は、六百有余年のからむし栽培技術を伝承してきた本州唯一の上布用高品質苧麻栽培地で、栽培から織りに至るほとんどの工程を手作業に頼る伝統文化は、山村にひっそりと息づき、先達の想いを紡ぎ、心を織り続けています。

主催：福島県 昭和村

共催・問い合わせ先：(株)奥会津昭和村振興公社

〒968-0103 福島県昭和村下中津川中島611

TEL 0241-57-2204

奥会津 昭和村

からむし織 見本市

昭和村は雪がまぶしい季節です。

夏に収穫されたからむしは雪の季節に糸になり、布になります。

昭和村の人々が守り続けてきたからむしをご覧ください。

開催日時 2010年 2月16日 (火)

～3月14日 (日)

会期期間中無休

11時～19時 (初日は13時～19時)

会場 エビス・ギャラリー コウゲツ

東京都渋谷区恵比寿1-5-2 こうげつビル205

交通アクセス JR恵比寿駅西口改札から徒歩3分



からむし織ものがたり

1. 焼き畑、施肥、垣づくり

毎年、二十四節気の小満の日(5月21日頃)を目安に、からむしの芽揃えや害虫駆除、残った灰を肥料にする等の目的から小ガヤを敷き、焼き畑が行われます。その後有機質肥料を撒き、乾燥を防ぐため葉を敷いた後、周囲を棒ガヤ等で囲み、垣を作ります。

2. 刈り取り

7月の土用頃に、2メートル近くに成長したからむしの刈り取りが行われます。葉を落とし茎の部分に尺杖を当て、規定の長さに切りそろえられます。

3. 皮剥ぎ

朝刈り取ったからむしを、乾燥を防ぎ剥ぎ易くするため冷たい清水に浸し、茎から丁寧に皮を剥ぎます。

4. 苧引き(おひき)

苧引き具を使い一本ずつ丁寧に表皮と繊維に引き分け取り出した繊維を2、3日陰干しにします。この作業は最も熟練が要され取り出した繊維は、原麻と呼ばれます。

5 苧績み(おうみ)・撚りかけ

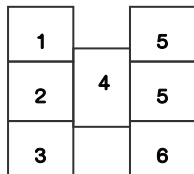
原麻を爪で細く裂き、撚りながら太さが均一になるように繋ぎます。大変根気のいる作業で繋いだ糸は糸車で撚りをかけられ強くて丈夫な糸に仕上がります。

6. 手織り

撚りをかけた糸は機にかけられ手織りにより、繊細で美しい織物に仕上がります。からむし織は非常に軽く通気性・吸湿性に優れ、肌触りもよく、正にこだわりの織物です。



(からむしはイラクサ科の多年草)



《見本市の概要》

・からむし織の着尺や小物(ブローチやバッグ・日傘など村のおばあ達が丁寧に作ったものなど)を展示いたします。

- ・からむしの原麻に実際に触れていただくこともできます。
- ・からむし織ができるまでの解説を行います。
- ・からむし織のしおり作り体験(材料費:500円)やからむしの糸作り(無料)を行います。



ぜひ、からむしの優しい風合いを

感じてみてください。

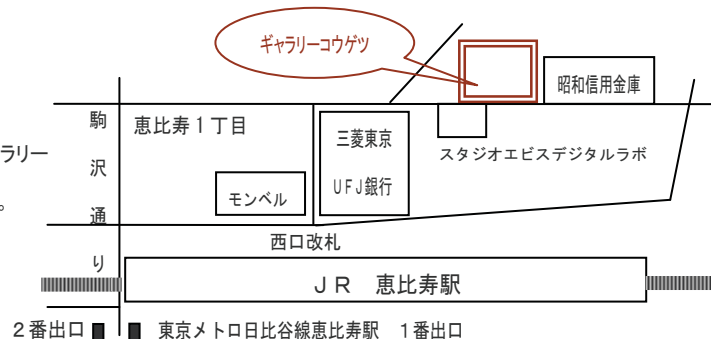


JR恵比寿駅西口改札が便利です。

レンガ色のビルです。

昭和信用金庫さんの隣にエビス・ギャラリー・コウゲツ専用階段入口2Fがあります。

エビス・ギャラリー・コウゲツの裏手にエレベータからの入り口があります。



2番出口 ■ ■ 東京メトロ日比谷線恵比寿駅 1番出口